

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	有限会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	福岡市博多区西月隈3丁目3-54		
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果確定日	平成26年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

家庭的な雰囲気のなかで介護・支援をし、レクリエーションなどの充実を図り、よりご入居者様に喜んで頂けるサービスの提供を心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_hosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年3月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム花みず木」は元々サービス業にも長く携わっていた代表が、快適な介護サービスの提供のために立ち上げた事業所で、今年で11年目を迎える。法人名「ACS」の由来は「アメニティ、ケア、サービス」の頭文字をとったもので、その名の通りサービス業としての立ち位置を心がけ、入居者にいかに喜んでもらえるか、という考え方が念頭に置かれている。月1回の郊外レクの企画など、担当職員が相手の立場にたった楽しいサービスを日々企画されるほか、外出には特に力を入れており、季節の花見、川下り、日帰り温泉など多岐にわたる。外部からの刺激として、生け花や習字などのボランティアにもきてもらい、レクリエーションではボール、ベル、ベルターを使った「3B体操」も取り入れている。今後もさらに地域との結びつきも強め、より一層の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年年初に基本方針や職員一人一人の反省・目標作成なども行い、理念と同様に実施に努めている。	会社の名前がそのまま「アメニティ、ケア、サービス」という理念につながり、事務所内に掲示し、面接やミーティングの際に伝えている。年度初めのミーティングで、年内の基本方針を定め、個人目標と共にケアに活かしている。快適なサービスを念頭に、求められている以上の事が提供できるよう常日頃から意識付けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、秋祭りを開催し地域の方々に来所頂いたり、サークル活動・町内清掃への参加などを交流を深めている。	秋祭りは厨房とも協力して出店も出し、毎年180名を超える来客で近くのマンション等からも多くの家族が来られる。自治会にも加入し、毎月の町内清掃や、近くの月隈校区の「こぐまサロン」で入居者と一緒に子どもと交流したり、ひな祭り展示に行ったりもしている。中学生の職場体験や民生員交流などでも地域交流が持たれている。	今後さらに地域交流を増やし、認知症に対しての理解を深めてもらうために、さらに地域自治会との交流機会を増やしていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の参加が少なかった為、介護保険の説明など地域への発信が出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動内容や行事の報告、地域行事への参加の提案など参加者と意見交換を2ヶ月に一回自治会長さんなどを招いて行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は餅つきや秋祭りなどの行事と一緒に開催することもあり、以前は認知症の勉強会も同時に行った。時期的に開催が難しい時期もあり、年に5回の開催に留まるが、民生委員の参加は多く、地域包括、自治副会長、児童委員も参加され、地域情報を頂くこともある。	地域の理解を深め、協力関係を作るために、行政とも協力しながら、地域代表の参加を増やしていくことが望まれる。参加してもらい意義を感じてもらえるような会議の運営や、他事業所との相互交流などで発展的な運営推進会議となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課の担当者などと連絡をとり現状の報告などを行っている。また、推進会議に地域包括センターの方もお招きするなど関係作りを行っている。	保護担当のケースワーカーとのやりとりは多く、質問や相談事などは窓口訪問か電話によって行っている。介護保険担当との接触の機会は少ないが、何かあった時の連絡や相談はすぐに行うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っている。また、入居者の現状を正しく把握し、見守りを行っている。	玄関施錠はしておらず、以前のヒヤリハットから所内の見守りを強化しており、夜間のみ施錠する。以前拘束の対象者がいた時は医師や家族とも相談して対応した。毎年の内部研修や外部研修は機会があれば参加し、スピーチロックには接遇研修や日頃からの注意で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフの入れ替わりが激しく、定着しなかったため出来なかった。		

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、研修報告会を実施。職員が制度について理解し、必要に応じて活用できるよう努めている。	以前、成年後見の利用者があり、現在も利用を進めているケースがある。必要時は行政や病院などの関係者とも協力し、手続きを進める。外部研修には管理者などが参加し、伝達を行う。日常生活自立支援事業もマニュアルを整備し、資料回覧などで、基本的な制度理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、必ず重要事項などの説明を十分に行い、了解を頂いて確認書に署名を頂いている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情対応体制について説明を行っており、意見箱の設置もしているが、面会時や電話でお話している時に直接話される事が多いので聞き逃さないよう努めている。すぐに対応できるものは対応し、内容によっては代表者に素早く回答するよう努めている。	家族からは面会時に意見を聞くことが多く、意見を出しやすいように働きかけ、サービスに関しての要望などを聞いている。遠方の家族には電話や、毎月発行の「花だより」で行事や近況報告をしている。食事に関する要望も所内で検討し対応につなげた。	さらに家族から意見を引き出していくため、話しやすい雰囲気づくりとして家族会の開催や隠れた意見を引き出す満足度調査などを検討されてはどうか。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングなどで職員の意見を聞く機会を設けている。	各ユニットごとのスタッフミーティングで、レクリエーションの提案や思った意見を挙げられている。管理者とも話をしやすく、年に2回社長との個別面談もある。職員同士の交流の機会として今年はBBQを企画中であり系列他施設との懇親会も催されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮をしている。	リーダーや管理者を中心に外部研修も案内される。職員は20～50歳代で男性職員もバランスよく配置されている。研修には勤務として参加し、レクリエーションなどの業務も担当を設けて様々な業務に皆で協力しながら携われるようにしている。	職員のレベルアップのために協力他施設との研修を企画してはどうか。また、職員の休憩と勤務のメリハリがつくように時間配分や休憩場所の検討がなされることにも期待したい。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や研修報告会・社内研修などにより、人権などを考える時間を持ち、業務などに活かせるよう取り組んでいる。	高齢者に対しての人権や尊重に関しての外部研修に参加して内部での資料回覧や伝達も行っている。昨年も職員が外部研修に参加して報告レポートも作成していた。		

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人の能力に合わせて、他の施設への研修を実施したり、日常業務においても指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修など外部との接触を通じて、交流の機会が増えるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時の情報や入所後にも本人との日常会話の中から情報を収集し、スタッフ間で共有して関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所の際に、傾聴した情報をスタッフ間で共有して関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも視野にいれつつ、現状での必要性を見極めながら、努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしていく中で、家事を手伝って頂いたり、会話をし、時には教え教わりながら良い関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族などとの会話を大切に、信頼関係が深まる様に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、家族や友人など関係者に協力頂いて、支援をしている。	個別ケアによって行きつけの美容室に連れて行ったり、友人が連れだして馴染みの集まりに参加したりもしている。家族に依頼して一時外泊や外食に行くこともある。買い物や食事にも連れて行き、関係の少ない方には事業所が連れだし、趣味活動の継続支援なども行っている。	

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関係が築けている。職員も加わり支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行くなどして、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人の考えなどを把握し、現状に合わせて対応出来るよう支援している。	担当職員が中心になって独自様式のアセスメントを使って細かく聞き取り、6ヶ月毎に見直しも行う。意思疎通の難しい方には面会時などにも家族から意向を聞き取り、現場の職員からの意見も反映させている。入居時や退院時などは3ヶ月の短期間での見直しも行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所後の本人や家族との会話の中で情報を収集し把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などをもとに、職員の間で話し合うなどして、一人ひとりの現状を把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の事を一番に考え、関係者・家族からお話を伺いながら、ミーティングなどで検討して計画を作成している。	職員を担当制にし、アセスメント、モニタリング、担当者会議に関わっている。ケアプランの目標を元に、毎日のモニタリングから担当者が日々の実施状況をチェックし、毎月の振り返りにもつなげる。提携医など外部の専門家の意見も聞きながら、毎月の個別のお便りでも家族にはまめに報告をしている。新入職員には時間をかけて内部研修などを行ってプラン作成などの指導を行い、全体で入居者に関わるように図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画をもとにした日々の記録により、ケアが有効だったのかなどを検証し、計画の見直しを実施している。		

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からの要請に対して柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議や行事などへ参加をして頂いて協力を得ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で24時間往診可能な体制を取っている。また、定期的に訪問歯科や個別に他科受診が受けられるよう支援をしている。	基本的には事業所の提携医を薦めているが、希望するかかりつけ医がいれば継続もしている。提携医は月2回往診があり、通院介助や他科支援は事業所が支援している。受診報告は個別のお便りでも行い、所内では受診報告書で情報共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、24時間連絡できる体制が出来ているので、何かあれば連絡・相談して、適切な看護を受けられるように支援をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を設置し、連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と協議しながら、当事務所の方針を理解して頂き、支援に取り組んでいる。	過去にも看取った例が一例あり、同意をとって看取りプランも作成している。前回の看取りの際は訪問看護とも連携して支援を行った。現在は、職員のスキル育成もあり、看取りは行わず、重度化の際は関係機関への紹介をしていくようにしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置についての研修内で行うほか、訪問診療の医師や看護師に指導を受けている。		

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を、日中・夜間想定で定期的に行っている。地域の方にもご参加いただき、協力体制を構築するように努めている。	年に2回防災訓練を行い、内1回は消防署が立会い、夜間想定訓練も行っている。以前運営推進会議と同日に訓練を行い、その際は地域からの参加もあった。非常時の連絡網にも地域代表に入ってもらい、有事の際の協力依頼をしている。スプリンクラー、防災設備も整っている。	防災対策強化の一環として、水や食料品などの備蓄物の確保の検討がなされることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格や生活歴などを把握して、親しみを持ちながらも、個々を尊重した言葉掛けをしている。	接遇やマナーに関しては内部研修によって学び、入居者に対してわかりやすい話し方、一緒に生活する仲間として親しみをもってもらうように、相手を尊重した話し方を心がける。気づいたことがあれば職員同士や管理者からも注意している。お便りや掲示などの写真利用に関しては事前に同意書をもって使用している。	個人情報保護やコンプライアンス、リスクマネジメントに関して、計画的な研修が行われていくことにも期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話から希望を引き出し、事故決定できるように支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースに合わせた生活ができるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人の好みを把握して、自分らしさをもったおしゃれが出来るよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで一緒に手伝って頂いている。本人との会話や家族からの情報をもとに、それぞれに合った食事をスタッフと共に食べて頂いている。	職員が交代制で調理を担当し、買い物から行っている。食事時の会話などから入居者とも相談して、ユニットそれぞれで翌日のメニューを決めており、買い物や調理も手伝えることは手伝ってもらい、職員も同じ食卓で同じ食事をとっている。行事食の提供や外食などでも食事を楽しんでもらう工夫を凝らしていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態や、能力に応じた対応をしている。		

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを実施、夜間は義歯の消毒を行っている。			
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間毎のトイレ誘導やトイレの活用など、その人に合わせた排泄方法に努めている。	必要な方のみ排尿のチェックを行い、モニタリング表のチェック項目と、個別記録によって時間を記録している。夜間帯もトイレ誘導を行い、適切な介助によって失禁の軽減につながったケースもある。失敗のあった際も周囲に配慮しながら、トイレに誘導して介助を行っている。	排泄パターンをより詳細に把握して、排泄状態の改善につなげるために、1週間24時間のつながりで管理できるような排泄チェック表の利用を検討してはどうだろうか。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事、水分補給などで取り組んでいる。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や当日の体調を考慮しながら、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	家庭用のユニットバスで、脱衣場にはエアコンもつき、室温管理されている。基本的には10時～19時の間で週2,3回の入浴だが、希望すれば夕食後や、毎日の入浴も出来る。入居者ごとにある程度同じサイクルで入浴を設定し、拒まれた際は時間や職員を変えて対応している。季節によってゆずや菖蒲など浮かべたり、希望の洗髪剤など使ってもらい入浴を楽しんでもらっている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝後は気持ちよく眠って頂けるよう照明や音などに気を配っている。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師や薬剤師からの説明などで全員理解をしている。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、習字教室、生け花教室などを行ったり、得意分野(裁縫など)を活かした役割を分担している。			

H25自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や近所の散歩などで行っている。外出レクなどでも地域の方やご家族の協力を頂きながら外出を楽しんでいる。	施設周囲の散歩や近くの公園には日常的に外出している。ユニットごとの外出行事も毎月企画し、3月は花見の予定である。地域ボランティアや家族にも協力してもらいながら外出を楽しみ、車いすの方でも偏りの無いように外出機会をもっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、保管庫預かりとしているが、本人の希望により使えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各人希望により対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により、飾る花や壁画を変えて掲示している。	調査時、リビングにはひな祭りで作ったさげもんが数多く飾られ、華やいだ雰囲気になっていた。行事の集合写真は大幅に額に入れて貼られており、楽しい様子が伝わってくる。女性らしい気配りの感じられる置物や絵飾りなども随所に施され、温かみのある空間に工夫されている。建物周囲に遮蔽物も少ないため、窓外も広がり開放的であった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に、居室や玄関のベンチで過ごせるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに使い慣れた家具・家電などを持ち込んでいただき、居心地よい居室作りに取り組んでいる。	ベッドは持ち込んだ物を使用してもらい、希望すれば畳を敷いて布団で休むことも出来る。間取りは共通で押入れ、収納スペースも用意され、壁の手すりですべて安全を図っている。持ち込みのほか、希望があれば事業所のタンスを利用したりポータブルトイレも貸し出している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を活かした身の回りのことができるよう安全に配慮した自立支援をしている。		